

野、サモ

シヨウガの栽培

シヨウガは殺菌作用や薬効、料理の香りづけや魚類のにおい消しなど、古来広く食生活に取り入れられてきました。

これを若いうちに収穫する葉シヨウガは、みそをつけてビールのつまみに、消臭にと、大いに役立つくれる家庭菜園におすすめの夏野菜といつてよいでしょう。密植できるので、狭い畑や庭先、プランター作りにも向いています。

種子は取れないので、まず種シヨウガ(塊茎)を準備することが必要です。成功のポイントは、何といたって良い種シヨウガを入手することです。4月中旬ごろから種シヨウガが出回ります。よく見て、病害根や腐れ込みがなく、充実して少し白い芽が伸び始めているものなら確実です。植えつけの適期は4月末〜5月下旬です。高温性なので地温が12度以上にならないと芽が伸びださないで、植えつけて芽が伸びだすまでには1カ月半〜2カ月近くかかります。

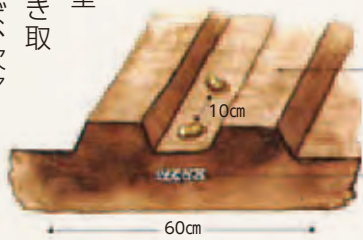
圃場の準備として、ふりかけ堆肥エコ300g/m²・苦土消石灰

100〜120g/m²を粒状よりりん40g/m²を施し、10日〜15日後に元肥として野菜有機S282を60g〜70g/m²を施用します。60cmの畝間を取って植え溝を掘ります。

大きい塊は指2、3本分ぐらいの大きさに分割し芽を3〜4個つけておきます。株間は7〜10cm開けて列状に植えつけます。覆土は5〜6cmとします。

芽が10cmほどに伸びたら、半月ごとに2〜3回、燐硝安加里S604を20g/m²と油粕を15g/m²追肥し土が盛り上がるように土寄せします。

葉が3〜4枚開いたところから収穫します。塊茎を残したままかき取るように収穫すれば、次々と夏の間収穫が楽しめます。途中で塊茎ごと収穫すれば古根として、秋まで置けば新シヨウガとして利用でき、重宝します。



荒起こし
 苦土消石灰100〜120g/m²
 ふりかけ堆肥エコ300g/m²
 粒状よりりん40g/m²

元肥
 野菜有機282
 60〜70g/m²
 (N・P・K=12・8・12)



最近、鳥害に悩まされていませんか？

山林の開発や天候不順などの影響なのか、近年では鳥類による農作物被害などが増加しています。鳥は「鳥獣保護法」によって基本的に保護されており、害鳥であっても捕獲には許可が必要で、致死性薬剤の使用もできません。そのため鳥類の生態、習性を理解し、適切な対策を行うことが重要です。



鳥類(主にカラス、ヒヨドリ)の習性

【鳥の五感】

鳥の五感は視覚中心でヒトに近い

1 視覚

ヒトよりやや優れる程度。暗闇もヒトと同程度で、「鳥目」ではない。また、色は識別できるが、「本能的に嫌う色はない。

2 聴覚

ヒトよりやや劣る。また、超音波は聞こえない。ヒトには聞こえず、鳥にだけ聞こえる音で追い払うことはできない。

3 味覚

ヒトより劣る。ただし、糖度の高い果物は好んで食べる。

4 嗅覚

ヒトと同程度。ゴミ袋の中の肉を見つけた手がかりは、臭いではなく視覚である。

5 その他

渡り鳥は地磁気を感じできるが、日常は視覚を使っているので、磁石の防鳥機具の効果は不明。

【鳥の学習能力】

音や色などを利用した追い払い装置も数日のうちに学習してしまい、本能的に避けつづける色や音は存在しない。

【ヒトに対する害】

「凶暴カラス」や「鳥に襲われる」と言われるが、カラスなどがフチバシで人をついたり、集団で襲ってくることはなく、恐れることはない。

具体的な鳥害対策

- 防鳥網で完全に覆うことが最良であり、ヒヨドリ、ムフドリでは30ミリ目合いの編み目が良い。
- テグスやひもを張り巡らす方法もある程度効果がある。鳥が逃げ出すとき邪魔になる物が多い場所に入るのをためらうため、翼を広げた長さ以下の間隔で張る。
- カカシや目玉模様の追い払い用具は、鳥に慣れさせないため、出しっぱなしにはしない。
- ダイズやトウモロコシ種子にまぶす忌避剤(登録農薬)は定効果がある。
- 供え物、生ゴミ、家畜飼料など鳥の餌になるものは放置しない。